

令和5年度 静岡市立静岡看護専門学校 学校関係者評価会議 議事録

日時：令和5年4月20日（木） 15時25分～16時40分

会場：静岡市立静岡看護専門学校1階会議室

出席者：

<委員>

櫻井 郁子 公益社団法人静岡県看護協会 常務理事
間淵 元子 医療法人社団宝徳会小鹿病院 看護部長
市川 照美 地方独立行政法人静岡市立静岡病院 副看護部長
柴田 正人 静岡市立静岡看護専門学校後援会長

<事務局>

瀧 泉 副校長
殿岡 和明 事務長
赤堀 美智子 教務長
松永 貴子 技監

1 副校長挨拶及び趣旨説明

瀧：学校関係者評価の進め方について説明。昨年度の卒業生は感染症の影響により入学式がなくなった世代。何とか卒業式はマスク等の制限もなく実施できた。これまでにない新たな発想で学校を運営してきた。教育の質の保障、向上のために忌憚のない意見を伺いたい。よろしくお願いします。

殿岡：4名の委員全員の出席で成立とさせていただきます。

2 委員及び学校職員・事務局紹介

委員、事務局の順で挨拶

3 委員長の選出

殿岡：静岡市付属機関設置条例第6条の規定により、委員の互選で定めることとなっています。委員からの推薦はありますか。

間淵：櫻井委員で如何でしょうか。

殿岡：みなさんどうですか。よろしいですか。

市川・柴田：はい。

4 副委員長の指名

殿岡：静岡市付属機関設置条例第6条4項の規定に基づき副委員長の指名をお願いします。

櫻井：間淵委員でお願いしたい。

5 議題

(1)「自己点検・自己評価 結果」報告

副校長より報告書及びアンケート集計結果に沿って報告

瀧：

Ⅲ(3)＜教員の教育・研究活動の充実＞1-2

中町実習控室にインターネット環境がなく、学内の会議等で学校に戻ってくることもある。時間の確保のため、今後実習控室に Wi-Fi 環境（インターネット環境）を整備することを検討している。

V(3)＜施設設備の整備＞2-1

本校は築後 30 年近く経過することもあり、古くなってガタがきているところもある。計画的に修繕等進めているが、建物自体となると多額の予算が必要となることからすぐに実施できる状態にはない。

V(5)＜養成所の運営計画と将来構想＞1

（本校の設置者である）保健衛生医療課を交えて学校の在り方について検討を始めた。短期的に解決する問題ではなく、今後も話し合いを継続していきたい。

VI入学 1-2

昨年度の 1，2 年生の中に、単位を一部修得せずに進級したものがいる。入学後の学習指導も必要だが、入学試験でしっかりと合格者を選抜するため面接試験に関するスキルアップなど実施していきたい。

VII卒業・就職・進学 4

昨年度も卒業生を対象にアンケートを行ったが、回収率は前年と同程度と低調だった。令和 5 年度からはアンケートの回収率の向上に努めるとともに卒業生と在学生の交流の場を設けるなど支援を拡大していきたい。

VIII＜国際交流＞(2)1, 2, 3

授業科目として取り入れてはいる。他校では姉妹都市などと交流を行っているところもあるが、本校では実践には至っていない。また、カリキュラムの問題から今後もすぐに導入する予定はない。

令和 4 年度末学生アンケート集計結果

学生の生の声を載せている。厳しい意見もある。令和 4 年度の新入生より導入した電子テキストの使用感についてもアンケートを実施したが、不慣れであることもあって不評だった。

(2) 質疑等

間淵：性（の多様性）についての言及が I 教育理念・教育目的の中でされているが、これは非常にデリケートで難しい問題。ユニフォームについては記載があるが、更衣室等の対応はどう考えているか。

瀧：この問題の発端が、（静岡市全体の方針として法的根拠のない性別の記載を削除することとなり、）入学願書から性別の記載欄がなくなったことにある。助産学科であれば法律上女性でなければならないため性別を問う必要があるが、看護学科では不要であるので削除することとなった。

その際、今まで異性同士で清拭の練習をしないように配慮はしていたが、同性同士でも嫌だった可能性があることに、これまであまり考えていなかったと気付いた。更衣室についても、多くの人がいる場所での着替えが嫌だった人がいるかもしれない。その場合は保健室を使用するのか？と考えていたが、昨年度中に更衣室にカーテンを設置して個別に着替えができる場所を作った。スペースの問題から設置数は少ないが。

とはいえ、精神的な性別を重視するだけではない。肉体的に男性の人を、精神的（性の自認が）には女性であることから女子更衣室を使用させるというわけにもいかない。その点については保健室を利用す

るなり今後も検討しなければならない問題である。今のところそういった訴えはない。また、確認も非常に難しい問題である。

櫻井：確認の方法がないと言われたが、今後学生の男女比率が変わってくる可能性もあり、清拭の演習を実施するのに情報なしで実施するのか何かしら確認をするのか。自分で言える人なら良いが、そうでない人もいる。

瀧：入学後に健康診断をするが、男女で基準値等が違うため少なくとも肉体的な性別を把握する必要があることはガイダンスで伝えている。また、そういった問題を相談できる窓口があるということも伝えたが、これまでのことを考えると見落として嫌な思いをさせてしまったかもしれない。

市川：臨床指導者会議について記載があるが、病院側の人員不足によりスタッフが出せないかもしれない。また、多くの学校の実習生を受け入れているが、若い人の理解が難しいと感じる指導者もいる。慣れない指導者が同僚に話すのと同じように学生に行ってしまったことで傷つけてしまったこともある。教員の協力と、若い人との対応に関してレクチャーが必要。

松永：先日実施した指導者会議で最初だけ顔を出して戻られた方もいて、人手不足について理解している。病院・指導者と教員との連携は深めていきたい。

若い世代の理解については教員としても日々考えている問題。前年度との学習状況の違いなどは病棟ごとに伝えているなど改善のために努力している。今後ともご協力いただきたい。

櫻井：地域とのつながりを持つという点では（協会としても）大変ありがたいと思っている今後も続けてほしい。

学生のアンケートの回収率の向上について、卒業前にアンケートがあることを予告しているのかどうかで違ってくる。就職1年目の看護師となると、忙しくて余裕がなく、自分のことで精いっぱいになってしまうので回答率は改善しないのではないだろうか。

ICTを進める中で、最近話題に挙がっている ChatGPT で論文などを提出する学生が現れる可能性がある。私たちの様にそういうもの（最新技術等）が苦手な人にとってそれを見破るのは難しい。

柴田：ChatGPT は、特定の文言を吐き出させるとログが残るのでわかるらしい。

櫻井：といっても一人一人確認することはできない。また、そういった方法での課題の提出があった場合にどう評価するか。

瀧：本校では、基本的に学内で作成した論文等を外部に発表することはない。また、学校に提出させる課題等についても自分の実習体験などを交えて作成することとしており、それが評価にも関わってくるようにしている。AI であってもそこまで具体的なことは書けないだろうし、実習評価などにおいて存在しない体験が記載されていれば担当教員が気付くことができる。他校よりは対策しやすいと思っている。加えて、そういったものを写しただけの課題等の提出があれば単位が認定されない旨を注意喚起し、倫理観についての指導も行っていきたい。

柴田：学生アンケートの集計結果と学校で作成された自己評価において乖離があるように見受けられる。アンケートに厳しい意見を書いている人にはかなり強い思いがあるようだ。若い人への対応など、学校側の工夫はどうなっているか。

Ⅲ教育課程経営＜教員の教育・研究活動の充実＞2-1 は3になっているが、自己研鑽とは単純に看護技術の研鑽にとどまるものか、それとも対人的な（教育）技術の研修を、コンサルを入れる等して実施しているのか。

瀧：基本的に自分の専門領域のスキルアップや、管理職となるためのマネジメント能力を向上させる研修に参加している。あくまで学生への対応ではなく自分の専門技術の研鑽。ただ、それだけでなく、ピアサポート論を学び、仲間同士で支え合うと言ったことを学んでいる教員もいる。

赤堀：（業務外ではあるが、）自分の時間を使って認識論を学び、学生の認識を決めつけるのではなく捉えようと努力している教員もいる。

櫻井：感染症の蔓延以降、ウェブでの研修が増えた。以前は時間がないなど参加が難しいという声も多かったが、最近ではウェブ上での研修が増えて参加しやすくなったと聞く。

（3）評価

櫻井：何か評価の中でへこうする箇所はありますか。私は、学校運営について2とされているところがあるが、感染症の影響によって実践できていないところはあるが、意識はしている。3としないまでも2.5くらいのつもりで今後も検討を続けてほしい。

間淵：私もその意見を推します。いつも学生のことを考えようとしている。前職ではこの学校の卒業生が来ることがあったが、後輩の面倒をよく見てくれていた。学校の中で温かく育ってきたのだと思う。今後も頑張っていただければと思う。

櫻井：特に評価の変更はなしということで良いですか。

委員一同：はい。（同意）

6 学校関係者評価の公表について

殿岡：以上で本日の会議は終了です。本日の会議議事録及び委員の皆様のご指名、所属団体を合わせて、ホームページ等に掲載します。